

令和 2 年 2 月 3 日  
仙台管区気象台

東北地方の月平均気温は 1 月としては最も高くなり、  
東北地方の月降雪量は 1 月としては最も少なくなりました

東北地方の月平均気温は 1 月としては 1946 年以降の高い  
方からの 1 位を更新し、東北地方の月降雪量は 1 月として  
は 1961 年以降の少ない方からの 1 位を更新しました。

冬型の気圧配置が長続きせず、寒気の影響が小さかったことから、東北地方にある 17 地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値を平均した 1 月の月平均気温は平年差 +2.3℃と 1 位となり、1946 年の統計開始以降の高い方からの 1 位となりました（これまでの 1 位は 2007 年と 1949 年の +2.0℃）。

また、東北地方にある 16 地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値を平均した 1 月の月降雪量は平年比 15%となり、1 月として 1961 年の統計開始以降の少ない方からの 1 位を更新しました（これまでの 1 位は 2007 年の 20%）。

詳しくは、下記 URL より、「2020 年 1 月の東北地方の天候」をご覧ください。

仙台管区気象台ホームページ 「2020 年 1 月の東北地方の天候」

[https://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/houdou/20/20200203\\_01TukiGaiyou.pdf](https://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/houdou/20/20200203_01TukiGaiyou.pdf)

問合せ先：仙台管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課

担当：金濱・中川 電話：022-297-8177 FAX：022-291-8110

## 2020年1月の東北地方の天候

○冬型の気圧配置が長続きせず、寒気の影響が小さかったことから、東北地方の月平均気温は1月として1946年以降最も高くなり、東北地方の月降雪量は1月として1961年以降最も少なかった。

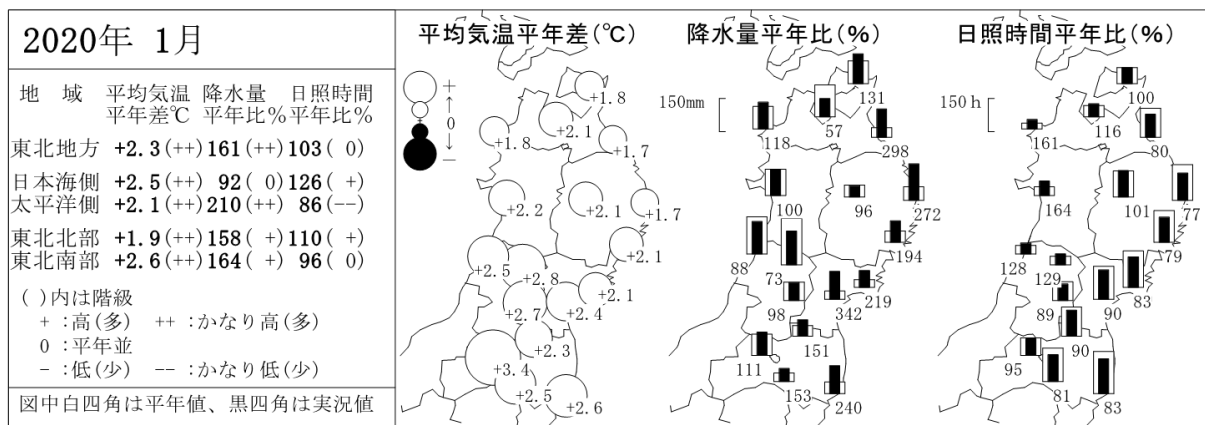
### 概況

冬型の気圧配置が続かず、低気圧や前線が本州付近を通過することが多かったため、天気は数日の周期で変わり、東北太平洋側で月降水量はかなり多くなり、月間日照時間はかなり少なくなった。一方、期間を通して寒気の南下が弱く、上旬後半と下旬には低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだため、月平均気温は東北地方でかなり高くなり、平年差+2.3℃と1月としては1946年以降で1位<sup>※1</sup>の高温となり、また、月降雪量は東北地方でかなり少なくなり、平年比15%と1月としては1961年以降で少ない方からの1位<sup>※1</sup>の記録を更新した（これまでの月平均気温の1位は2007年と1949年の+2.0℃、これまでの月降雪量の1位は2007年の20%）。地点別の月平均気温は、青森、大船渡、仙台、山形、新庄、酒田、福島、若松、白河、小名浜で1月として高い方からの1位<sup>※1</sup>（青森、大船渡は1位タイ）を記録した。29日の日降水量は仙台で86.0mmとなり1月として多い方からの1位<sup>※1</sup>を記録した。また日最低気温は29日に、青森で4.5℃、むつで3.9℃、新庄で4.3℃となり1月として高い方からの1位<sup>※1</sup>を記録した。

1日は冬型の気圧配置が強まり、山沿いを中心に大雪となった所があった。8日から9日には発達した低気圧が東北地方を通過し、東北北部を中心に大雨や大雪となった所があった。20日と21日は低気圧や冬型の気圧配置の影響で、宮城県を除く各県で山沿いを中心に大雪となった所があった。29日から30日にかけては発達した低気圧が、福島県沖から三陸沖にかけて北上し、暖かく湿った空気が流れ込んだため各県で大雨となり、岩手県、宮城県、福島県では日降水量が100mmを超えた所があった。

（※1：統計開始以降の順位を示す）

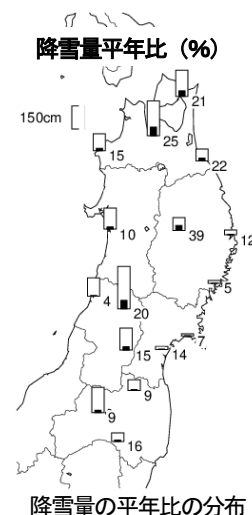
月平均気温はかなり高い。月降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり少ない。月降雪量はかなり少ない。



平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比の分布

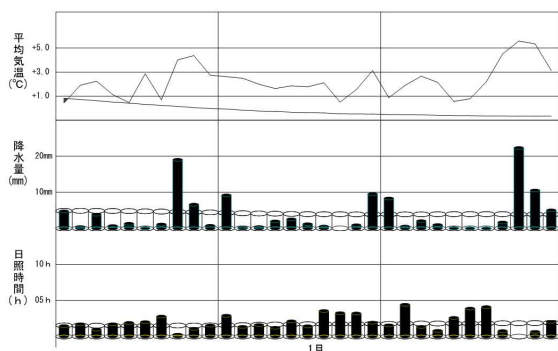
2020年1月の月降雪量地域平均年比と階級

	地域平均年比	階級
東北地方	15%	かなり少ない
東北日本海側	14%	かなり少ない
東北太平洋側	16%	かなり少ない
東北北部	19%	かなり少ない
東北南部	12%	かなり少ない

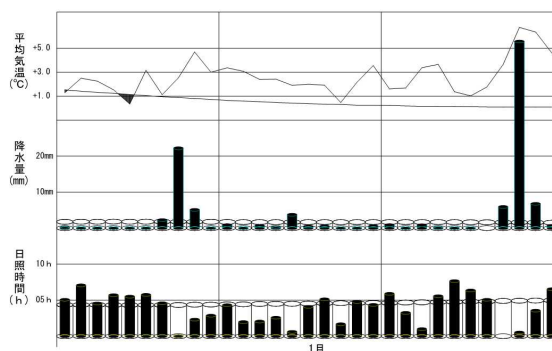


降水量、日照時間、降雪量年比分布図の凡例について

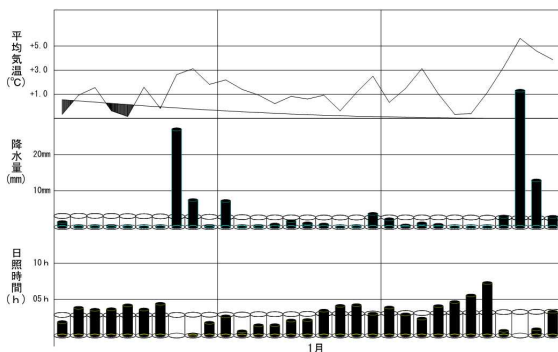
降水量、日照時間、降雪量年比分布図の各地点の白四角と黒四角はそれぞれ年値と実況値です。各分布図の左上のスケール(高さ)は、降水量(mm)、日照時間(h)、降雪量(cm)を表します。各地点の数字は年比(%)です。



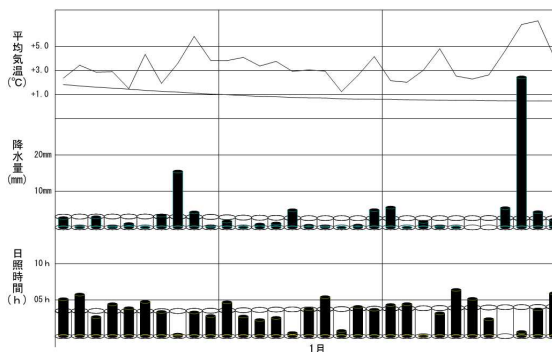
東北日本海側



東北太平洋側



東北北部



東北南部

平均気温、降水量、日照時間の経過

左上は東北日本海側、右上は東北太平洋側、左下は東北北部、右下は東北南部の気象官署の観測値と年値の地域平均。気温は折れ線が観測値、実線が年値で、陰影は年値より低いことを示す。降水量と日照時間は黒円柱が観測値、白円柱が年値。

注意事項

気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています。このうち、降雪量については、小名浜を除く16地点より求めています。(速報値)

細分地域を東北日本海側は青森県津軽・秋田県・山形県・福島県会津、東北太平洋側は青森県下北・三八上北・岩手県・宮城県・福島県中通り・浜通り、東北北部は青森県・秋田県・岩手県、東北南部は宮城県・山形県・福島県としています。

気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り年と比較した階級を表します。年値の統計期間は1981~2010年です。階級区分は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めています。また、値が1981~2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には「かなり高い(多い)」「かなり低い(少ない)」と表現します。

## 2020年1月の極値・順位の更新 (順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。)

### 月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
1	大船渡	2.9 =	+2.1	2.9 (2007)	1964	0.8
	新庄	1.7	+2.8	0.8 (2007)	1958	-1.1
	若松	2.8	+3.4	1.9 (1989)	1954	-0.6
	青森	0.9 =	+2.1	0.9 (1903)	1882	-1.2
	酒田	4.2	+2.5	4.0 (2007)	1937	1.7
	山形	2.3	+2.7	1.7 (2007)	1890	-0.4
	仙台	4.0	+2.4	3.8 (2007)	1927	1.6
	福島	3.9	+2.3	3.6 (1949)	1890	1.6
	白河	2.8	+2.5	2.6 (1989)	1940	0.3
小名浜	6.4	+2.6	5.9 (1989)	1911	3.8	
2	秋田	2.3	+2.2	2.7 (2007)	1883	0.1
3	八戸	0.8 =	+1.7	1.2 (2007)	1937	-0.9
	盛岡	0.2	+2.1	0.6 (2007)	1924	-1.9
	石巻	2.8	+2.1	3.3 (1949)	1888	0.7

### 月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
2	仙台	126.5	342	147.5 (2002)	1927	37.0
3	小名浜	126.5	240	163.5 (2002)	1911	52.8

### 月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
3	秋田	65.5	164	70.1 (1989)	1900	39.9

### 月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
2	大船渡	113.0	79	107.6 (1993)	1964	142.8

月平均気温低い方から、月降水量少ない方から、降雪の深さ月合計値多い方から、月最深積雪大きい方からの順位更新の3位以内はありません。

(注) ・値の横に「=」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。  
平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。

## 2020年1月の月気候表

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比) 階級		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		降雪深さ(平年値)階級		最深積雪(平年値)階級	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)
青森	0.9	(+2.1) ++	83.0	( 57 ) -*	13	59.3	( 116 ) +	56	( 225 ) -*	28	( 88 ) -*
深浦	1.6	(+1.8) ++	120.0	( 118 ) +	16	43.4	( 161 ) ++	16	( 110 ) -*	3	( 32 ) -*
むつ	0.4	(+1.8) ++	135.5	( 131 ) +	10	71.5	( 100 ) ○	36	( 168 ) -*	17	( 46 ) -*
八戸	0.8	(+1.7) ++	127.5	( 298 ) ++	10	104.2	( 80 ) -*	17	( 77 ) -*	6	( 17 ) -*
秋田	2.3	(+2.2) ++	119.0	( 100 ) ○	15	65.5	( 164 ) ++	14	( 138 ) -*	8	( 31 ) -*
盛岡	0.2	(+2.1) ++	51.0	( 96 ) ○	7	118.4	( 101 ) ○	33	( 85 ) -*	22	( 29 ) ○
大船渡	2.9	(+2.1) ++	97.0	( 194 ) +	5	113.0	( 79 ) -*	1	( 19 ) -*	1	( 7 ) -*
宮古	2.0	(+1.7) ++	165.0	( 272 ) ++	5	124.4	( 77 ) -*	4	( 33 ) -*	4	( 13 ) -
仙台	4.0	(+2.4) ++	126.5	( 342 ) ++	7	134.0	( 90 ) -	3	( 21 ) -*	3	( 10 ) -
石巻	2.8	(+2.1) ++	76.5	( 219 ) +	8	137.8	( 83 ) -*	1	( 14 ) -*	1	( 8 ) -*
山形	2.3	(+2.7) ++	81.5	( 98 ) ○	14	75.7	( 89 ) -	22	( 148 ) -*	5	( 40 ) -*
新庄	1.7	(+2.8) ++	152.5	( 73 ) -	19	49.8	( 129 ) +	56	( 283 ) -*	21	( 101 ) -*
酒田	4.2	(+2.5) ++	147.5	( 88 ) ○	16	50.6	( 128 ) +	5	( 122 ) -*	2	( 25 ) -*
福島	3.9	(+2.3) ++	74.5	( 151 ) +	6	118.6	( 90 ) -	7	( 74 ) -*	2	( 19 ) -*
若松	2.8	(+3.4) ++	105.5	( 111 ) +	14	74.9	( 95 ) ○	16	( 171 ) -*	8	( 49 ) -*
白河	2.8	(+2.5) ++	59.5	( 153 ) +	6	121.9	( 81 ) -*	9	( 58 ) -*	4]	( 15 ) -*
小名浜	6.4	(+2.6) ++	126.5	( 240 ) ++	6	156.8	( 83 ) -*	( )	( )	( )	( )

(注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+ : 高い (多い)    ○ : 平年並    - : 低い (少ない)

各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に\*を付加した。この場合には

かなり高い (多い)                      かなり低い (少ない)

と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横( ) や ] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。 ) 付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、] 付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

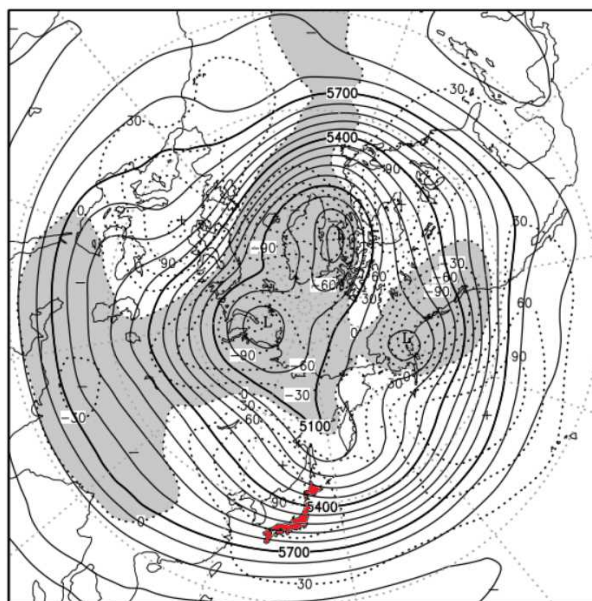
なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「X」とした。

## 循環場の特徴

500hPa 高度は、北極付近が平年より低く、中緯度帯は広い範囲で平年より高くなり、北極振動が正のパターンで、寒気が北極付近に蓄積し、日本を含む中緯度帯に寒気が流れ込みにくいパターンとなった。また、日本付近を流れる偏西風は北へ蛇行し、全国的に暖かい空気に覆われやすかった。

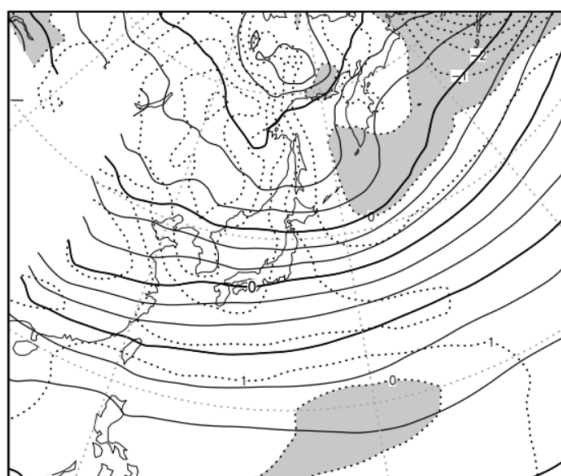
850hPa 気温は、アリューシャンから北東で平年より低い一方、日本付近は平年より高く、北からの寒気の南下が弱かった。

海面気圧は、日本の東海上を中心に平年より高く、モンゴルから西日本、日本の南海上にかけては平年より低かった。日本付近は冬型の気圧配置が弱く、太平洋側を中心に低気圧の影響を受けやすかった。



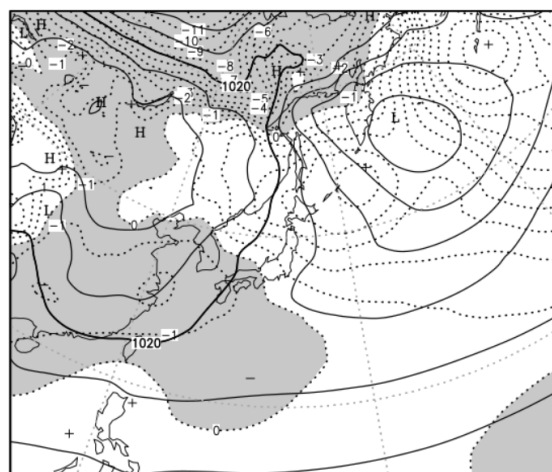
2020年1月の平均500hPa高度

実線は高度(m)、間隔60m。点線は偏差(m)、間隔30m。陰影は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。



2020年1月の平均850hPa気温

実線は気温(°C)、間隔3°C。点線は偏差(°C)、間隔1°C。陰影は負偏差で寒気に対応し、白抜きは正偏差で暖気に対応する。



2020年1月の平均海面気圧

実線は海面気圧(hPa)、間隔4hPa。点線は偏差(hPa)、間隔1hPa。陰影は負偏差、白抜きは正偏差。